

広域処理でほんとにいいの？ その2

～多摩で燃やしたそのあとは・・・～

《講師》

廃棄物処理場問題全国ネットワーク共同代表 藤原寿和さん

《現場からの報告》

立川市議会議員

大沢 ゆたかさん

日時：7月8日（日） 午後1：30～4：30

場所：三鷹市市民協働センター 第2会議室（三鷹駅徒歩15分）

資料代：500円

主催：ごみ有料化。納得できない！三鷹市民の会

連絡先 080-5465-8138 竹内

Email: team.gzm0528@smail.plala.or.jp

ブログ: <http://mitakanogomi.blog.shinobi.jp/>



講師紹介：藤原寿和さん

廃棄物処理場問題全国ネットワーク共同代表。

「残土・産廃問題ネットワーク・ちば」「止めよう！ダイオキシン汚染・関東ネットワーク」「化学物質問題市民研究会」などなど、多くの活動に関わってこられた。

公害・環境問題への取り組みは、学生時代の水俣病問題にはじまり、その後、東京都の職員となって環境行政に長く携わりながら、同時に市民としての活動を続けてこられた。

大沢ゆたかさん

立川市議会議員 4 期目。

山口大学文理学部物理学専攻卒業。「日の出の森・支える会」副代表。ごみ問題、環境問題を考え行動する「みみずの会」など、ごみ環境・福祉・反戦などを中心に活動。

「震災がれき」について考えてみると、いろいろな疑問が湧いてくる。

☆ 問題なのは、放射能汚染だけ？

震災がれきは、産業廃棄物と同等の取り扱いをするべきもの。家庭から出るごみと同じように燃やしてしまっても安全なのでしょうか？放射能だけではなく、ダイオキシン・重金属類を含んだ焼却灰は、どこへ？

☆ 震災がれきの受け入れは、ほんとうに被災地支援になっているの？

木屑、コンクリート、金属などが含まれる「震災がれき」の分別をすること、安全に処理すること、これらの作業は、地元での雇用創出になるのでは？専門的な知識と技術を持った人材を現地へ送ること、「震災がれき」の運搬処理費用を被災地で直接運用することこそ、いま必要な支援なのではないでしょうか。

☆ 私たちは、命に関わる問題を「おまかせ」し続けていくの？

原子力発電所の「安全神話」を多くの人が信じて、命に関わる判断を任せてきたように、震災がれきの処理についても、国や行政に見て見ぬふりして「おまかせ」してしまって大丈夫なのでしょうか。

焼却によるダイオキシン・重金属などの飛散、焼却灰の最終処分など、ごみ処理そのものに多くの問題があることが、「震災がれき」の受け入れ問題で、一気にはっきりと見えてきました。

「おまかせ」ではなく、少しでもよい方策をともに考えていきませんか。